

国スポ・障スポ 大会総括とレガシーの創出について



湖国の感動「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」

わたしがあなたがみんなが輝いた大会

今年度の大きな“感動、経験”を未来につなげる

国スポ



● 会期前 2025.9.6~9.15、9.21~9.25

● 本会期 2025.9.28~10.8

来場者数 のべ
約60.4万人

男女総合成績
第1位(天皇杯)

女子総合成績
第1位(皇后杯)

● 本会期 2025.10.25~10.27

来場者数 のべ 約8.2万人

金 87個
銀 53個
銅 34個
メダル過去最高
合計 174個

障スポ



環境に配慮し実践する大会

- ✓マイボトル持参の呼びかけ
各会場での給水 ペットボトル約39,000本分
- ✓リユース食器 約10,000個の再利用
- ✓CO₂ネットゼロアクションチェックシート
670人・38事業所が参加



スポーツの力でつくる共生社会

- ✓「カームダウンスペース」設置
- ✓障害の有無に関わらず楽しめる様々な工夫
- ✓大会をきっかけに
共生社会の実現への関心が高まった 86%
※来場者アンケートより



おもてなしで滋賀の魅力発信

- ✓県産食材・郷土料理の式典弁当
- ✓おもてなしSHIGAエリア:
滋賀の食、グッズ、体験等
- ✓各競技会場でのべ約10,000人のボランティア



子ども、若者、女性が活躍

- ✓学校観戦等 約300校、約35,000人の子どもたち
- ✓レイキッズ卒業生の活躍
- ✓県内の学生等約1,700人が障スポ選手団サポーターに
- ✓高校生を中心に競技補助員のべ約15,000人



スポーツを「する」だけではない、様々な価値が育まれた大会

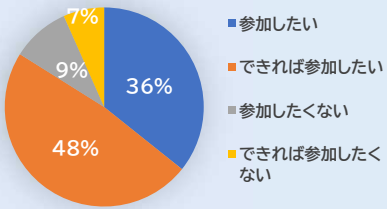
レガシー継承・発展に向け、2026年 再始動

国スポ・障スポを通じて得た様々な声

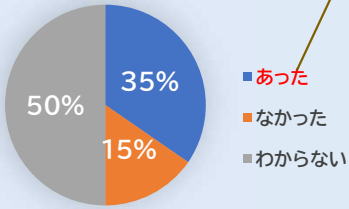
● 若者からの声 ●

中・高・特支学生（競技補助員等）

今後の大会等への参加意向
(n=2,257)



今後の学校生活や将来へ活かせることの有無について
(n=2,257)



➤ 84%の生徒が今後も大会等への参加意向を有していた。今後の学校生活等への活かし方については、半数が不明との回答であったが、大会を通じて新たな気づきを得た生徒も認められた。

「あった」と回答のあった生徒等のコメント (活かせることの具体的内容)

- 障スポでの選手の笑顔を見て心が暖くなり、自分は人の笑顔をみるのが好きだと気づいた。その気づきを将来の夢に繋げられるようにしたい。(高等学校)
- 裏方の役割を知れて裏方の有り難さを知る事が出来たから。(特別支援学校)
- 周りで困っている人に気軽に声をかけにくい姿勢や公共の場としての挨拶等のマナー。(高等学校)
- その人が感じた苦労や努力などの経験を聞いたりすることが大事だと気づき、これは自分の将来に充分活かせるものだと思う。(中学校)

大学生等（障スポ選手団サポーター）

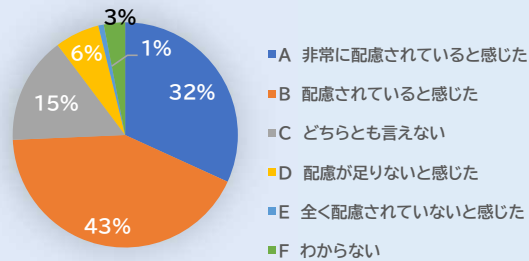
コメント（大会で得られた気づき）

- 障がい者の方は皆さん同じではなく、一人ひとりの障がいが違うので、その人にあったサポート、対応の仕方があると感じた。
- 障害の方とこんなに関われる機会はないし、初めて知れたことや、尊敬することもたくさんあった。すごく貴重な体験をできて楽しかった。またなにか参加したいと思った。
- サポートする側を初めて試みて、今ある環境に改めて感謝を覚えました
- 気遣いや気配り。周りを見て判断したり自分から動くことが大切
- 自分から主体的にコミュニケーションを取ることで、心を開いてもらえるようになった。自分から動くことが大切で、自分のいる価値を見出すのも自分次第だと強く感じた。

● 障スポ選手など来場者からの声 ●

（共生社会実現に向けたアンケート）

障害者や高齢者、小さなお子様連れなどにスタッフや施設が配慮できており、誰もが安心して過ごせる環境づくりがされていると感じましたか。
(n=654)

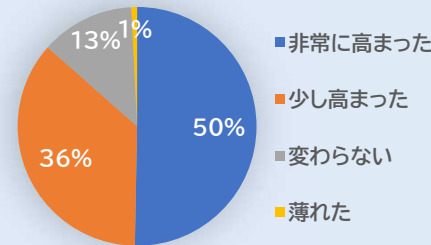


➤ ハード面での指摘もあったが、ソフト面でのもう少しの思いやりや気づきで改善できる指摘も多かった。

（問）改善が必要な点は

- スタッフが急に車いすの前を横切るような場面が何度も見られた。(40代 大会役員・式典出演者等)
- 車椅子の走行注意マークあるとよりよかったです。(段差や坂)(50代 選手・監督等)
- 公式練習場では、ボランティアの方一人一人が試合に向かう選手にエールの言葉を送っていただき、選手団からも過去の大会でここまで応援していただける県はなかったと喜んでおられました。(改善点ではありませんが、ぜひ知っていただきたく記入しました)(30代 ボランティア・運営スタッフ)

大会をきっかけに、共生社会の実現への関心が高まりましたか？
(n=654)



（問）大会のレガシーとして共生社会づくりが進むために、具体的にどのような行動が必要か

- 共生社会づくりの一環である建物づくりにおいて、健常者主体で物事を進めるだけでは細部まで配慮が行き届かないため、障害を持つ選手の意見をもっと取り入れる機会を増やすことが必要と感じた。(20代 大会役員・式典出演者等)
- 共生社会では、一人ひとりがつ身体的、精神的な特徴、困難な部分も含めた自己開示と他者理解の促進が必要だと思います！そのためには選手や運営サポートの方々とのコミュニケーションが必要で、その交流こそがはじめの一歩だと思います。(40代 選手・監督等)
- 現役の選手が教育施設などの訪問を通して子どもたちにも興味を持って貰えるようなカリキュラムを作成する必要があると思う。(10代 選手・監督等)
- 障害者のイメージが身体と精神がちや混ぜになっている印象が強い。ちゃんと違いを認識することがスタートラインだと思います。(60代 選手・監督等)

大会で得た感動や経験、うまれた“人とスポーツとの様々な関わり”を未来への糧に!

スポーツのちからで かわる つながる ひろがる SHIGA



かわる

まちがかわる

- ・シンボルスポーツの創出と定着
- ・スポーツ施設の利用促進や有効活用

移動がかわる

- ・ライドシェア等の実証、新たなモビリティの検討

学校での活動がかわる

- ・部活動改革（地域連携等の推進）

- ▶ 2030年までにシンボルスポーツ定着を目指す
- ▶ 2027年に県内公共スポーツ施設の利用者数を880万人以上に
- ▶ 中学校部活動における地域連携の推進と地域展開を見据えた対応

ひとがつながる

- ・観光コンテンツの磨き上げ
- ・「食」を通じたファンや関わりへの創出
- ・HPに構築した魅力発信ページを活かした情報発信
- ・パラアスリート交流

行動につながる

- ・健康づくりの推進
- ・しがプラスチックチャレンジプロジェクト

大会の経験につながる

- ・近畿ブロックインターハイ（2026年）
- ・ワールドマスターズゲームズ関西（2027年）
- ・サイバーセキュリティの確保、テロ対策等の推進
- ▶ 2027年に観光入込客数を6,000万人(過去最高)に
- ▶ 客観的健康寿命のさらなる延伸
- ▶ 給水スポットのさらなる増加

つながる

夢・可能性がひろがる

- ・ジュニアアスリート育成
- ・アスリートのセカンドキャリア支援
- ・子どもの体験活動の充実

楽しさひろがる

- ・スポーツの集客力を生かした公園の魅力発信
- ・レベルや特性等に応じたスポーツ振興
- ・スポーツ人材の育成

裾野がひろがる

- ・パラスポーツ実施機会・環境の充実
- ・子育て世代のスポーツ環境整備
- ・共感を広げ、支える人の裾野を広げる

大会を機に醸成された機運がひろがる

- ・スポーツ施設等へのウォーターサーバー設置
- ・共生社会づくり、ユニバーサルデザイン
- ・手話等による意思疎通の促進
- ・社会全体で取り組む治安対策の強化

- ▶ 2027年にスポーツを観戦した県民の割合を40%以上、スポーツボランティア参加者数を3,800人以上に
- ▶ 共生社会になっていると感じる人の割合をUP

大会を契機にうまれた有形無形のレガシーで
「健康しが」を深化

【第80回国民スポーツ大会】 冬季大会の結果概要

第80回国スポ 冬季大会が青森県と秋田県で開催
 冬季大会終了時点での男女総合成績は 過去最高の **4位**！



競技名	天皇杯得点	順位	皇后杯得点	順位
スケート	77点	10位	39点	13位
アイスホッケー	50点	4位		
スキー	40点	9位	34点	5位
総合成績	167点	4位	73点	5位

「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」に向けた選手強化の取組は
 レガシーとして成果に表れています！